

中国・上海港の最近の動向

平成21年2月7日から10日まで、大阪港の友好港である中国・上海港へ技術交流で訪問しました。その概要について報告します。



1. 上海港と大阪港の友好関係

1981年10月30日に上海港と大阪港は友好港として提携し、それ以来、親善視察団の相互派遣をはじめ、港湾技術交流、姉妹港・友好港会議等の開催等を通じて友好関係を深めています。

いまや大阪港にとって中国は外貿取扱貨物量の半分以上を占め、中でも上海港は全体の2割近くを占める最大の貿易相手港となっています。さらに両港を結ぶ国際フェリーが週2便就航するなど、友好交流の輪は、物流はもとより人々の相互訪問へと広がっています。

2. 技術交流(意見交換会)

上海市港口管理局の会議室において、「効果的な組織運営・人材活用」及び「背後機能と一体となった港湾の持続的発展」をテーマとして意見交換を行いました。以下にその内容の一部を紹介します。

「効果的な組織運営・人材活用」

大阪市の人事評価が、職責ごとに決められた評価項目を5段階で評価しているように、上海市でも同様の人事評価を行っています。なお、上海市の評価項目は、①「徳」個人の道徳的行動、②「能」個人の能力。主として法律に沿って行う能力と開拓性の能力。③「勤」勤勉、責任。④「績」業績。量の観点と質の観点。⑤「廉」清廉。賄賂をしない、不正をしないなど。という5項目を4段階評価しています。

「背後機能と一体となった港湾の持続的発展」

上海港の計画は2010年までですが、既に2008年に目標は達成しています。港の発展は国の経済発展と連動しており、上海港も90年代から取扱量が急激に増加していますが、世界経済の影響を受け今年は昨年を下回るようです。将来的にもこれまでのペースで増えることはなく、また交通や環境面から4~5,000万TEUといった

取扱量にはせず、今後は量より質の発展、特に港の使いやすさ、物流サービスに重点をおきます。

3. 上海港視察

意見交換会のほか、洋山深水港区などを視察しました。

2002年より段階的に整備してきた洋山深水港区も、既に延長約6キロ、16のコンテナバースが完成し、ガントリークレーンは60基設置されています。取扱量は260万TEU(2006年)→610万TEU(2007年)→820万TEU(2008年)と急激に増加してきており、最終的には1,500万TEUになると見込まれています。さらにこのコンテナターミナル(=小洋山)にほぼ平行する形でもう一列のコンテナターミナル(=大洋山)が計画されています。

東海大橋のたもとには臨港新城が開発中で、人工湖を中心に環状に住宅、商業サービスが集まる新しい街ができつつあります。物流団地も計画されており、既にいくつかの企業が進出しています。また、物流団地近くには鉄道コンテナターミナルも2007年に開業し、内陸主要都市へ輸送する基地となっています。

4. まとめ

今回の技術交流では、意見交換のテーマや実際の上海港視察で参考になることが多くあり、百聞は一見に如かずといいますが、実際に自分で見聞きして気付いたことについて、今後さらに理解を深め、大阪港の発展に結び付けていきたいと思えます。

大阪市港湾局経営管理部
総務担当課長代理 高橋秀之
担当係長(ポートセールス) 友田伸治

